

クラス番号	626	担当教員名	木戸 利秋
テーマ	地域文化と福祉の接点から地域づくりを考える －地域福祉の可能性と課題－		
著書・論文 研究課題等	木戸利秋編『新潟の在宅ケア－新しい世紀をみつめて－』とき書房、2001年 木戸利秋編『その笑顔がみたいから－福祉改革期と穂波の里の10年－』萌文社、2004年 共著『福祉社会開発学－理論・政策・実践－』ミネルヴァ書房、2008年 研究課題：地域ケアと住民自治、イギリスの貧困・社会的排除研究		

ゼミナール概要

キーワード：地域文化、集落自治・住民自治、条件不利地域、地域福祉

目的、内容、方法等：

2016年度の2年次の社会福祉特別講義で、私は社会福祉の対象者とその抱える問題を理解するとき、社会福祉を歴史的に捉える視点が大切であること、とりわけ地域の歴史文化資源と住民生活とのかかわりに問題意識をもつように言いました。過疎や離島という条件不利地域のなかで、なぜ住民はそこに住み続けたいと思うのかを問うた時に、豊かな自然環境とともに地域の伝統文化や芸能等に囲まれた暮らしが、地域への愛着の形成、住民間のつながりの育成に肯定的に作用している可能性があることを指摘しました。

これらのことは、国が「自助、共助、公助」というスローガンのもと、福祉の公的責任を縮小しながら、安全安心の役割を地域に委ねようとする動きが強まる中で、地域が本来有している価値に立脚しながら、地域福祉をボトムアップでつくりあげていく可能性を示すものです。このゼミでは、この観点をフィールド活動や学習と討論を通して批判的に検証することを目的とします。

まずゼミでは、地域福祉と歴史文化に関する文献などを読み、地域福祉のなかで歴史文化を取り上げる意義や視点を考えます。同時に、フィールドワークを通して、地域の文化活動を担っている住民等へのヒアリング調査を行います。3年次はそれらをもとにレポートにまとめ、4年次の課題を明らかにします。

ゼミでの研究活動に加えて、卒業後の就職・キャリアや社会福祉士国家試験対策等についても、ゼミで取り組む予定です。

授業計画： 以下は計画案であり、ゼミで議論して取り組むなかで変わる場合があります。

- 1 オリエンテーション
- 2－8 テキスト購読 一番ヶ瀬康子他『福祉文化論』有斐閣（1997）
全体15章を7回程度のゼミに分けて、議論。
- 9－11 地域文化と福祉に関する映像の視聴をふまえた討論
- 12－14 後期の佐渡調査の検討、卒業後の進路について、前期まとめとレポート提出
- 15 前期まとめと後期の課題
- 16－23 ソーシャルワーク実習セメスター期間。実習はおおむね前半と後半に分かれる。
その時期に実習に該当しない学生グループで、伝統文化の宝庫と言われる佐渡島でのフィールドワーク（2泊3日）を実施。9月と10月に2回実施するので、ゼミ生はいずれかに必ず参加すること。費用は自費が基本。ただしゼミ活動への援助金等を活用。詳しくは初回のオリで説明。
- 24－27 テキスト購読 適宜指示する
- 28－30 佐渡調査のまとめとレポート提出、卒論にむけた問題意識の交流、進路の再確認と春休みの課題

担当教員からのメッセージ



これまで自分の町の地域文化に様々な思い出があるという人も多いと思います。このゼミでの学習やフィールドワークを通して、自分の町の良さを再発見でき、そこで自分が働く喜びを見いだせるようになるといいですね。

フィールドワークの体験を通して得られた成果を、自分の卒業研究や就職活動、国家試験勉強のモチベーションにつなげていけるような学びをめざしたいと思います。